

屋久島山岳部利用のあり方検討会 屋久島登山道の整備・管理方針(修正案)

H31.1.14 H30年度第4回検討会合意版

1	屋久島山岳部を利用する上で求められる事項 (屋久島の山の文化に対する配慮)	屋久島の山は、現代においても山岳信仰が受け継がれている「聖地」 屋久島の自然の厳しさを認識した上で、山への畏敬の念や感謝、遠慮の心を持つての利用が求められる						
2	利用体験ランク(呼称は要検討)	1 都市的	2	3	4	5 原生的	備考・留意点	
3	想定される利用体験の質	屋久島山岳部の自然にふれあう探勝ルート ・バスやレンタカー等で容易にアクセスでき、行程は半日未満の一般観光客向けルート。 ・木道や階段が整備され、川には橋があるなど、安全性・快適性に配慮された探勝ルートで、屋久島の自然とふれあえる。	屋久島山岳部の自然を楽しむトレッキングルート ・バスやレンタカー等で容易にアクセスでき、行程は日帰り(半日～一日)の登山入門者向けルート。 ・木道や階段が適所に設置され、川には橋があるなど、快適性が優先されたトレッキングルートで、屋久島の自然を楽しむ。	屋久島山岳部の自然を体感できる登山道 ・舗装路または未舗装路での車両を用いたアクセスが基本となり、行程は日帰り(一日)の登山経験者向けルート。 ・快適性よりも自然の雰囲気保持が優先された登山道で、屋久島の自然を体感できる。 ・危険個所に小規模の木道や階段が設置されるが、渡渉が必要な場合があり、悪天候時には行程変更の判断が求められるなど、登山者自らの一定のリスク管理と行動判断が要求される。	屋久島山岳部の原生的な自然を体感できる登山道 ・未舗装路や悪路での車両を用いたアクセスが基本となり、行程は日帰り(一日)または一泊の登山経験者向けルート。 ・自然の雰囲気の保持が最優先された、人との出会いが稀な登山道で、屋久島の原生的な自然を体感できる。 ・木道や階段の整備を行わないことを基本とする。また、渡渉が必要な場合があり、ルートの誘導は必要最低限で、悪天候時には行程変更の判断が求められるなど、登山者自らのリスク管理と高度な行動判断が要求される。	屋久島山岳部の原生的かつ荘厳な自然を深く体感できる登山道 ・徒歩でのアクセスが基本となり、行程は一泊以上の経験豊富な登山者向けルート。 ・自然の雰囲気の保持が最優先された、ほぼ人と出会わない登山道で、屋久島の原生的かつ荘厳な自然を深く体感できる。 ・木道や階段の整備を行わないことを基本とする。また、渡渉が必要な場合があり、ルートの誘導は必要最低限で、悪天候時には行程変更の判断が求められるなど、登山者自らのリスク管理と極めて高度な行動判断が要求される。		
4	利用者	想定される利用者	一般観光客	ハイカー・登山入門者	登山者	登山者	豊富な経験を有する登山者	一般観光客:体力や技術がそれほどない人も含む。 ハイカー・登山初心者:一定の体力や技術が必要。
	想定される行程	半日未満	日帰り(半日～一日)	日帰り(一日)	日帰り(一日)・行程によって一泊	一泊以上		
	装備(靴)	歩行に適した靴(サンダル・ハイヒール等不可)	トレッキングシューズ	トレッキングシューズ・登山靴(ある程度の防水性・足首のホールド性があるもの)	登山靴(防水性が高く、足首がホールドされるもの)	登山靴(防水性が高く、足首がホールドされるもの)		
	登山装備(悪天候時や道迷い等の際の備え)	雨除け対策(登山用レインウェア)	雨除け対策(登山用レインウェア) 非常食 道迷い対策(地図・コンパスなど) ヘッドライト	一般的な登山装備 行程変更対策(非常食、ツェルト等) 道迷い対策(地図・コンパス・GPS) ヘッドライト 救急セット	一般的な登山装備(宿泊装備含む) 行程変更対策(非常食、エマージェンシーシート、ツェルト等) 道迷い対策(地図・コンパス・GPS) ヘッドライト 救急セット	一般的な登山装備(宿泊装備含む) 行程変更対策(非常食、エマージェンシーシート、ツェルト等) 道迷い対策(地図・コンパス・GPS) ヘッドライト 救急セット	3～5は、増水で渡渉点が渡れなくなった場合等の装備が必要。 4、5は、道迷いしてしまった場合に自分の位置を確認し、ルートに復帰するための装備が必要。	
5	想定されるリスクと対策の方針	道迷い	道迷いの発生防止を最優先とした整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	道迷いの発生防止を優先させた整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	道迷いの発生に関して一定のリスクを伴うが、自然の雰囲気の保持を優先させた整備・管理とする。	自然の雰囲気の保持を最優先とした、道迷いの発生を防止するための必要最低限の整備・管理とする。	自然の雰囲気の保持を最優先とした、道迷いの発生を防止するための必要最低限の整備・管理とする。	
	路面状況による転倒などのケガ	転倒の発生等の防止を最優先とした整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	自然の雰囲気の保持よりも、転倒の発生等の防止を優先させた整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	転倒の発生等に関して一定のリスクを伴うが、自然の雰囲気の保持を優先させた整備・管理とする。	自然の雰囲気の保持を最優先とした、転倒の発生等を防止するための必要最低限の整備・管理とする。	転倒の発生等の防止に関する整備を行わないことを基本とし、必要最低限の管理とする。		
	荒天時のリスク(渡渉点の増水・大雨や霧による視界不良などによる行程変更)	荒天時にも安全に避難・待機することが可能な整備・管理を行う。	必要に応じて、荒天時にも避難・待機することが可能な整備・管理を行う。	利用者自らの能力・装備・経験による対応を基本とし、既存の避難小屋や一部の休憩スペース以外に荒天時のリスクに対する整備は行わず、管理は必要最低限とする。	利用者自らの能力・装備・経験による対応を基本とし、既存の避難小屋以外に荒天時のリスクに対する整備は行わず、管理は必要最低限とする。	利用者自らの能力・装備・経験による対応を基本とし、既存の避難小屋以外に荒天時のリスクに対する整備は行わず、管理は必要最低限とする。		
6	利用の頻度・利用の容易さ	人との出会い(繁忙期を除く)	常に人に出会い、時に渋滞が起きる。数十名の団体利用も想定される。	しばしば人に出会う。	時々(1時間に数回程度)人に出会う。	稀に(1日に数回程度)人に出会う。	1日の行程で、ほとんど人と出会わない。	普通の平日を想定。
	アクセス	バス・レンタカー等で容易に到着できる。	バス・レンタカー等で容易に到着できる。	舗装路を利用して、車両で到着できる。場所によっては、未舗装路利用の場合もある。	未舗装路・悪路を利用して車両で到達する。場所によっては徒歩でのみ到達可能な場合もある。	徒歩での到達を基本とする。場所によっては未舗装路・悪路を利用して車両で到達可能な場合もある。		
7	環境	自然らしさ(人工物の状況)	安全性・快適性のため、人工的な構造物が頻りに設置されている環境	安全性・快適性のため、人工的な構造物が適所に設置されている環境	安全性・快適性のため人工的な構造物が少なく、自然の雰囲気の保持が優先された環境	人工物がほとんど無い、原生的な自然を感じられる環境	人工物がほとんど無い、原生的な自然を感じられる環境	
	音	人工音(自動車の走行音等)が聞こえる場合がある。	人工音(自動車の走行音等)が聞こえる場合がある。	まれに人工音(自動車の走行音等)が聞こえる場合がある。	静かで、ほぼ自然音のみが聞こえる。	静かで、ほぼ自然音のみが聞こえる。		

2	利用体験ランク(呼称は要検討)		1	2	3	4	5	備考・留意点	
			都市的				原生的		
8	施設	道の歩きやすさ(路面・木道の整備)	ぬかるんでいる場所、木の根や石で滑りやすい場所、傾斜がある場所等には、歩きやすいよう木道・階段等を設置する。	地面を歩くことを基本とするが、木の根・石・斜面などの滑りやすい場所には、必要に応じて木道・階段を設置する。	地面を歩くことを基本とし、特に滑りやすい部分や急傾斜等には必要に応じて小規模な木道を設置する。	路面の整備、木道の設置を行わないことを基本とする。	路面の整備、木道の設置を行わないことを基本とする。	・設置した木道等は適切に保全・補修等を行う。 ・登山道荒廃対策や植生の保護を目的とした木道については、ランクによらず適切に設置する。 ・整備の程度はランク・状況により検討が必要となる。	
		橋・渡渉点の対応	渡渉しなくてよいように、橋等を設置する。	・渡渉しなくてよいように、必要に応じて簡易な橋を設置する。 ・橋を設置しない場合、渡渉点が増水した際は管理者の判断で利用を制限することがある。	対策を行わないことを基本とし、渡渉が必要な場合がある。必要に応じてロープやワイヤーを設置する。 (渡渉の可否について利用者自らが判断することを基本とする)	対策を行わないことを基本とし、渡渉が必要な場合がある。 (渡渉の可否について利用者自らが判断することを基本とする)	対策を行わないことを基本とし、渡渉が必要な場合がある。 (渡渉の可否について利用者自らが判断することを基本とする)		
		ロープが必要な登坂・岩登り箇所への対応	必要な箇所に階段等を設置する。	必要な箇所に階段やはしご等を設置する。	必要な箇所にロープや鎖を設置する。	必要な箇所に最低限のロープや鎖を設置する。	対策を行わないことを基本とするが、危険箇所には必要最低限の対策を行う。		
		トイレ・携帯トイレブースの設置	出入口に男女別のトイレを設置する。 距離・入込者数等の必要に応じて、区間内にも適宜トイレを設置する。 (処理の方法は状況による)	出入口に男女別のトイレを設置する。 距離・入込者数等の必要に応じて、区間内にも適宜携帯トイレブースを設置する。	必要に応じて、区間内の要所に携帯トイレブースを設置する。設置の際は自然の雰囲気保持に配慮する。	区間内に必要最低限の携帯トイレブースを設置する。設置の際は自然の雰囲気保持に配慮する。	トイレ・携帯トイレブースを設置しない。 屋外での携帯トイレ使用を基本とする。		
		休憩施設・ベンチ	雨除け可能な東屋を適所に設置する。 ベンチを一定間隔で設置する。	ベンチ・休憩スペースを適所に設置する。 必要に応じて雨除け可能な東屋を設置する。	必要に応じて最低限の休憩スペースを設置する。 避難小屋やその周辺のスペースを利用する。	設置しない。	設置しない。		
		宿泊施設	山での宿泊の想定無し	山での宿泊の想定無し	山での宿泊の想定無し	避難小屋 避難小屋周辺でのテント泊	宿泊施設、避難小屋及びテント場は設置しない。 (他ルートの避難小屋利用を想定)	緊急的にピクニックする場合を除く。	
9	管理	標識	案内(道の案内・地図等)	入口及び分岐点・立ち寄り地点の要所に設置 (登山道のランクを明記して、注意喚起)	入口に設置 (登山道のランクを明記して、注意喚起)	入口に設置 (登山道のランクを明記して、注意喚起)	簡易なものを入口に設置 (登山道のランクを明記して、注意喚起)	簡易なものを入口に設置 (登山道のランクを明記して、注意喚起)	
			道標	分岐点及び一定区間ごとに設置	分岐点及び一定区間ごと(頻度は中程度)に設置	分岐点及び必要に応じて区間内に最低限の設置	分岐点にのみ設置	分岐点にのみ設置	
			規制・注意	入口に注意点を明記。 全ての規制・危険箇所に設置。	入口に注意点を明記。 必要に応じて規制・危険箇所に設置。	入口に注意点を明記。 必要に応じて規制・危険箇所に最低限の設置。	入口に特筆すべき注意点を明記。 区間内では設置しないことを基本とするが、特に危険箇所については、必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	入口に特筆すべき注意点を明記。 区間内では設置しないことを基本とするが、特に危険箇所については、必要に応じて目印(テープ等)による注意喚起を行う。	危険箇所明示のための目印(テープ)は、誘導目的のものと同様のものを用いる。
			解説	優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。 また、上記が存在する箇所に解説板を設置する。(整備の際は自然の雰囲気保持に配慮)	優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。 また、上記が存在する箇所に解説板を設置する。(整備の際は自然の雰囲気保持に配慮)	特に優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。 また、上記が存在する主な箇所に必要最低限の解説板を設置する。(整備の際は自然の雰囲気保持に配慮)	特に優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。 ※各箇所には設置しない。	特に優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。 ※各箇所には設置しない。	
	ルートの誘導・ルート外へ出ないようにするための規制	・ルートが明瞭な状態とする。 ・不明瞭な箇所においては、柵、ロープ、木道等により歩行可能な場所が明瞭な状態とする。	・ルートが明瞭な状態とする。 ・不明瞭でルート外に利用者が逸出する可能性がある区間ではロープ等によりルートが判別できる状態とする。	・ルートが明瞭な区間での誘導は行わない。 ・ルートが不明瞭な区間では、必要最低限の間隔で誘導のための目印(テープ等)が設置された状態とする。	・区間内のルートの誘導は行わない。 ・ルートが特に不明瞭な区間では、必要最低限の間隔で誘導のための目印(テープ等)が設置された状態とする。	・区間内のルートの誘導は行わない。 ・ルートが特に不明瞭な区間では、必要最低限の間隔で誘導のための目印(テープ等)が設置された状態とする。	誘導のための目印(テープ)は、他の目的のものと同様のものを用いる。		
	危険木(倒木や落枝の恐れのある木)の処理	定期的に危険木の有無を確認する。 基本的に伐採又は枝落とし等の処理を行い、当該処理ができない場合には簡易看板等による注意喚起を行う。	必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	必要に応じて最低限の簡易看板等による注意喚起を行う。	対策を行わないことを基本とするが、特に危険な木については、必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	対策を行わないことを基本とし、ルートの入口での注意喚起など、必要最低限の対策に留めるものとするが、特に危険な木については、必要に応じて目印(テープ等)による注意喚起を行う。	危険木明示のための目印(テープ)は、誘導目的のものと同様のものを用いる。		
	倒木の処理	巡視時に倒木があった場合、速やかに処理する。ルート上に倒木等が無い状態を保つ。	巡視時に倒木があった場合、速やかに処理する。ルート上に倒木等が無い状態を保つ。	巡視時に状況を確認する。 状況に応じて倒木の処理を行い、通行可能な状態とする。	巡視時に状況を確認する。 通過できる程度の必要最低限の処理を行う。	巡視時に状況を確認する。 倒木迂回による植生への影響、倒木乗り越え時の危険、倒木による道迷い、倒木が登山道保全に影響がある場合のみ、周辺環境への影響が出ない方法で処理を行う。	応急措置として、通行止めや迂回路とする場合もある。		
	草木の刈り払い	必要に応じて定期的な刈り払いを行い、草木が通行の妨げとならず、快適に歩行できる状態を保つ。	必要に応じて定期的な刈り払いを行い、草木が通行の妨げとならない状態を保つ。	巡視時に状況を確認する。 自然の雰囲気保持を優先しつつ、必要に応じて必要な箇所の刈り払いを行い、通行可能な状態とする。	巡視時に状況を確認する。 原生的な自然の雰囲気保持を最優先とし、必要に応じて、通過できる程度の最低限の刈り払いとする。	巡視時に状況を確認する。 原生的な自然の雰囲気保持を最優先とし、必要に応じて、通過できる程度の最低限の管理とする。			
巡視の頻度	1日に1回程度実施	1週間に1回程度実施	1ヶ月に1回程度実施	年に1・2回程度実施	年に1回程度実施				

【ランクを問わず必要な留意点】

※1 利用体験ランクの設定は無雪期で荒天時を除いた天候での利用時を想定しており、降雪期・積雪期や荒天時には利用に伴うリスク(渡渉点の増水や視界不良、転倒のリスク等)が想定より高くなることに留意が必要である。

※2 ランクを問わずヒルによる咬傷の可能性があるため、利用者には適切な対処をするように推奨する。

登山ルートのあるべき利用体験ランク整理表

H31.1.14 H30年度第4回検討会合意版

利用体験 ランク※ (素案)	No.	ルート
1	13	ヤクスギランド30分・50分コース
	19	白谷雲水峡 弥生杉コース
2	14	ヤクスギランド80分コース
	15	ヤクスギランド150分コース
	16	ヤクスギランド210分コース
	20	白谷雲水峡 奉行杉コース
	21	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩 往復
3	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り
	3	淀川入口～黒味岳往復 日帰り
	10	モッチョム岳往復 日帰り
	17	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り
	18	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り
	22	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口
	23	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り
4	2	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊
	4	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り
	5	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊
	6	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊
	11	愛子岳往復 日帰り
	12	龍神杉往復 日帰り
	24	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り
29	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊	
5	7	永田歩道入口～永田岳往復 1泊
	8	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～花山歩道入口 1泊
	9	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～永田歩道入口 1泊
	25	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道～ヤクスギランド出口 1泊
	26	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り
	27	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩道入口 1泊
	28	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊

【前提となる条件】

- ・利用体験ランクは、**5年後から10年後に目指すべき将来像**として、各登山ルートでのあるべき利用体験の質を5段階で表したものとなる。
- ・ランクの設定は、各登山ルートの魅力や得ることができる利用体験、必要な体力や想定されるリスク、整備状況等を踏まえた総合的な判断による。

※留意点

- ・利用体験ランクは、各登山ルートの現況を表すものではなく、また、各登山ルートの難易度の評価ではないことに留意する。
- ・具体的な整備方針については、各登山ルートの利用体験ランクを踏まえ、区間ごとに検討する。

登山ルートのあるべき利用体験ランク(修正版)

区分	No.	ルート	利用体験 ランク (案)	利用体験ランク選定理由	備考・留意点
縄文杉	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り	3	・WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、必要な体力やリスク面等を考慮し、ランク3を想定。	・WSIにおいて、「想定される利用体験の質の面ではランク2が妥当であると思う。また、現状の利用状況を踏まえると、施設整備の水準としてはランク2が望ましい」との意見が挙げられた。
	2	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・宿泊想定であり、時間の余裕はできるが、宿泊のための知識、経験、装備が必要となる。宿泊装備を運搬する体力も必要。 ・日帰りよりも利用者が少なく、静かに、より深く自然を体感することができる。	・日帰りではなく高塚小屋等を利用しての宿泊想定の場合、より深い利用体験を得ることができる(人の少ない静かな状況で縄文杉を見ることができる、など)。 ・宿泊は高塚小屋の利用を想定。 ・H30第4回検討会において、荒川登山口往復コースよりも、峠を1つ多く越えることから体力が必要との指摘があった。
黒味岳	3	淀川入口～黒味岳往復 日帰り	3	・魅力として奥岳の原生的な自然を体感できるルートであるが、コースタイムや距離、体力面やリスク面といった現況等を考慮し、ランク3を想定。	
宮之浦岳	4	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り	4	・WSでの議論を踏まえ、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。 ・WSIにおいて、「比較的人との出会いがあるルート」、「日帰り想定の場合、一日のコースタイムが非常に長くなるため、推奨できない」との意見が挙げられた。
淀川入口～荒川口	5	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊	4	・WSでの議論を踏まえ、宿泊想定であること、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	・宿泊は新高塚小屋もしくは高塚小屋の利用を想定。
淀川入口～白谷雲水峡	6	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊	4	・宿泊想定であること、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	・宿泊は新高塚小屋もしくは高塚小屋の利用を想定。
永田歩道・花山歩道	7	永田歩道入口～永田岳往復 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は鹿之沢小屋の利用を想定。
	8	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～花山歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・第3回検討会において、「湯泊歩道や栗生歩道といった他の歩道の比較した場合、現在の花山歩道の状況はランク4が適当」という意見が挙げられた。 ・理想の状況として、ランク5の利用体験が可能なルートとすることを旨とし、適切な整備・管理水準とすることを想定。 ・宿泊は鹿之沢小屋の利用を想定。
	9	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～永田歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は鹿之沢小屋の利用を想定。
モッコヨム岳	10	モッコヨム岳往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、前岳エリアであることを考慮。 ・日帰り行程で、万代杉(巨木)やコケのきれいな沢、山頂からの眺望など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・雨が降った場合に滑りやすくなる箇所があるなどの留意点が挙げられており、利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。 ・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
愛子岳	11	愛子岳往復 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・コースタイムや距離、必要な体力やリスク面を考慮。 ・日帰り行程で、登山口から世界遺産地域に含まれており、山頂からの眺望や照葉樹林から針広混交林までの植生の移り変わり等を体感できるルート。	・雨が降った場合に滑りやすくなる箇所があるなどの留意点が挙げられており、利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。 ・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
龍神杉	12	龍神杉往復 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・コースタイムや距離、必要な体力やリスク面を考慮。 ・日帰り行程で、龍神杉等の巨木や苔の生えた石畳などを楽しむことができるルート。また、トロコ道跡があり、林業の歴史を感じることができる。	・渡渉点があり、道迷いや転倒等のリスクが比較的高く、ヒルが多いことから、現状では利用に伴うリスクが高い(現況評価で5)。
ヤクスギランド	13	ヤクスギランド30分・50分コース	1	・第3回検討会時に決定。	
	14	ヤクスギランド80分コース	2	・コースタイムや距離は比較的小さいが、整備状況等を踏まえランク2を想定。	
	15	ヤクスギランド150分コース	2	・コースタイムや距離、体力面やリスク面、整備状況等の現況を踏まえ、ランク2を想定。	
	16	ヤクスギランド210分コース	2	・コースタイムや距離、体力面やリスク面、整備状況等の現況を踏まえ、ランク2を想定。	
太忠岳	17	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、体力面やリスク面等の現況を考慮。 ・日帰り行程で、植生の変化やスギの天然林、山頂付近からの展望など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・山頂に祠がある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
大和杉	18	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、体力面やリスク面等の現況を考慮。 ・日帰り行程で、大和杉(巨木)や苔むした風景、原生林の雰囲気など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・聞き取りの際、留意点として「道迷いしやすい箇所がある」という意見が挙げられた。
白谷雲水峡	19	白谷雲水峡 弥生杉コース	1	・WSでの議論を踏まえ、一般観光客を含めた様々な利用者が屋久島の自然とふれあうことができるルートとして、ランク1を想定。	・WSIにおいて、「ランク1を想定した場合、登り階段の厳しさ、入口付近の岩場等での転倒リスクがある」という意見が挙げられた。
	20	白谷雲水峡 奉行杉コース	2	・WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、体力面を考慮し、ランク2を想定。(渡渉点のリスクについての対策は留意点参照)	・渡渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
	21	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩往復	2	・WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、体力面を考慮し、ランク2を想定。(渡渉点のリスクについての対策は留意点参照)	・渡渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
	22	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口	3	・WSでの議論を踏まえ、No.22やNo.23と比較してコースタイムや距離が長くなり、体力面が厳しくなることを考慮し、ランク3を想定。	・渡渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
尾之間歩道	23	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、リスク面(現況評価で4)を考慮。 ・日帰り行程で、蛇之口滝の景観や、希少な植物が生育する照葉樹林など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・現状では利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。
	24	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・利用に伴うリスクは高い(現況評価で5)が、日帰り行程が可能であることを考慮。 ・日帰り行程で、スギ林から照葉樹林への植生の変化を体感でき、鯛之川や蛇之口滝の景観を楽しむことができるルート。 ・原生的な自然を静かに体感できる現状の利用状況や整備水準を維持することが望ましい。	・現状では利用に伴うリスクが高い(現況評価で5)。
花之江河登山道	25	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道～ヤクスギランド出口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は石塚小屋の利用を想定。
湯泊歩道・栗生歩道	26	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・原生的な自然を静かに体感できる現状の整備水準や利用状況を維持することが望ましく、かつ山頂に祠がある岳参りの道としての神聖性など、様々な魅力を深く体験できる。 ・コースタイムや距離から日帰り行程が可能ではあるが、アクセスルートが崩壊しており、登山口への到達が困難かつ時間がかかる状況であることから、例外としてランク5を想定。	・第4回検討会において、「登山口までの林道の崩壊によりアクセスが困難であるとともに、登山口が非常に分かりづらい。」との意見が挙げられた。 ・聞き取りでは「比較的登りやすいルート」との意見が挙げられた一方、「木道や標識は少ない。整備状況や利用者の数は現状程度が望ましい」との意見が挙げられた。
	27	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は石塚小屋の利用を想定。
	28	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は石塚小屋の利用を想定。
楠川歩道	29	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊	4	・宿泊想定であること、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性、楠川歩道の歴史的な雰囲気(石積歩道、石標)といった魅力、必要な体力やリスク等を考慮し、ランク4を想定。	・宿泊は新高塚小屋もしくは高塚小屋の利用を想定。

【前提となる条件】

- ・利用体験ランクは、**5年後から10年後に目指すべき将来像**として、各登山ルートでのあるべき利用体験の質を5段階で表したものとなる。
- ・ランクの設定は、各登山ルートの魅力や得ることができる利用体験、必要な体力や想定されるリスク、整備状況等を踏まえた総合的な判断による。

【留意点】

- ・利用体験ランクは、各登山ルートの現況を表すものではなく、また、各登山ルートの難易度の評価ではないことに留意する。
- ・具体的な整備方針については、各登山ルートの利用体験ランクを踏まえ、区間ごとに検討する。

区分	No.	対象ルート	利用体験 ランク
縄文杉	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り	3
	2	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊	4
黒味岳	3	淀川入口～黒味岳往復 日帰り	3
宮之浦岳	4	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り	4
淀川入口～ 荒川口	5	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊	4
淀川入口～ 白谷雲水峡	6	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊	4
永田歩道・ 花山歩道	7	永田歩道入口～永田岳往復 1泊	5
	8	淀川入口～花山歩道入口 1泊	5
	9	淀川入口～永田歩道入口 1泊	5
モッチョム岳	10	モッチョム岳往復 日帰り	3
愛子岳	11	愛子岳往復 日帰り	4
龍神杉	12	龍神杉往復 日帰り	4
ヤクスギランド	13	ヤクスギランド30分・50分コース	1
	14	ヤクスギランド80分コース	2
	15	ヤクスギランド150分コース	2
	16	ヤクスギランド210分コース	2
太忠岳	17	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り	3
大和杉	18	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り	3
白谷雲水峡	19	白谷雲水峡 弥生杉コース	1
	20	白谷雲水峡 奉行杉コース	2
	21	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩往復	2
	22	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口	3
尾之間歩道	23	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り	3
	24	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り	4
花之江河登山道	25	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道 1泊	5
湯泊歩道・ 栗生歩道	26	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り	5
	27	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩道入口 1泊	5
	28	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊	5
楠川歩道	29	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊	4

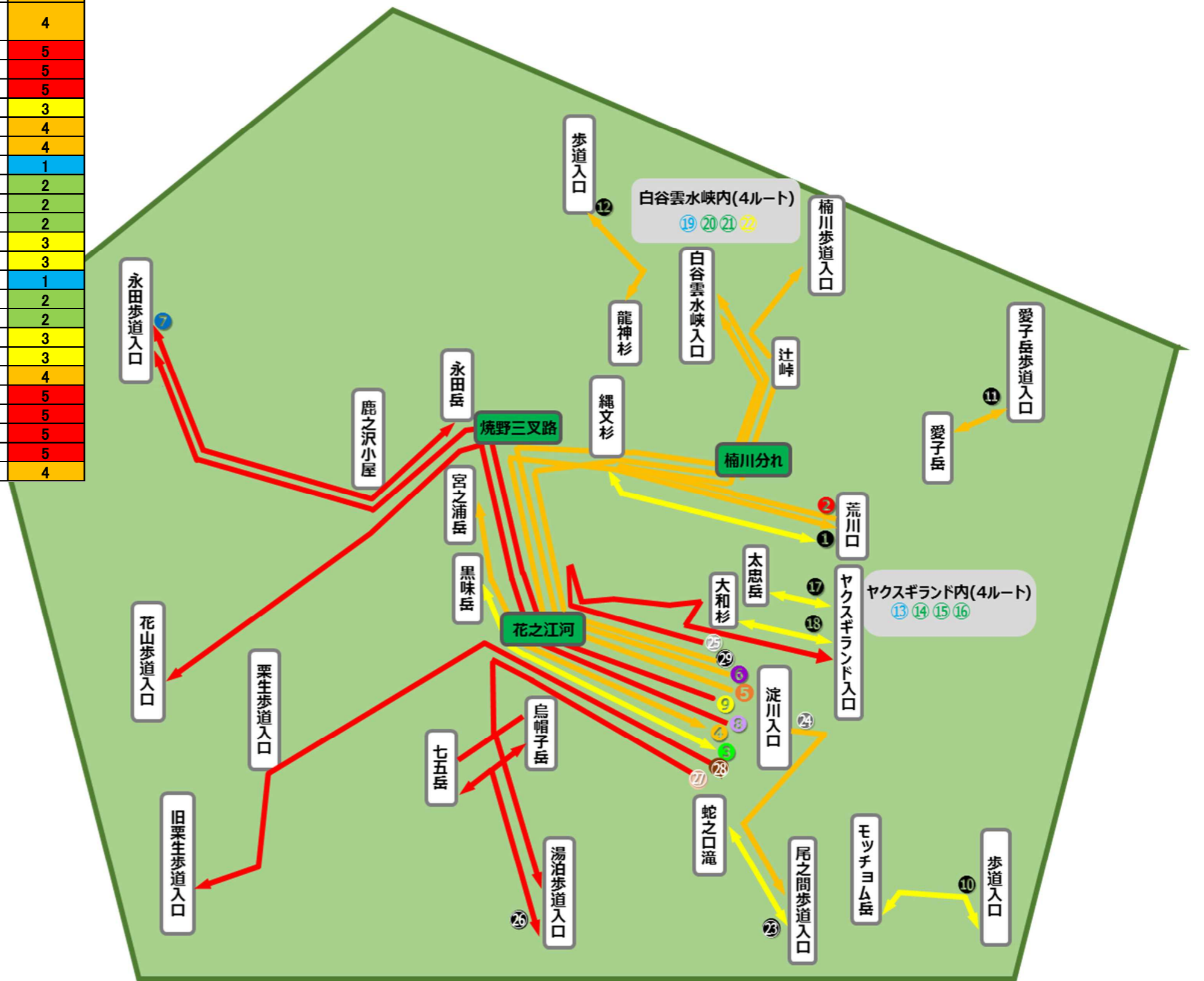


図 対象登山ルートへのルート図（利用体験ランクにより色分け）